

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

豆撒きの豆歳の倍食べにけり

西2丁目 佐藤 順子

特選

肩書きが一つ取れたら新しいラベルをぺたり私は私

下戸祭1丁目 豊田 まりえ

特選

姑と仲をとりもつ洗濯機

氷室町 関 ふさ子

●特選の選評 この句に出合った時思わず、「うっふっ」と笑ってしまいました。お若い人なんだな。三十歳前後なら六十個、なんとか頑張れる。でも三十五歳で七十個は少し無理。私は四十五歳から年は取らないことになっている。

●特選の選評 人生の区切りを迎えられたのだろうか。三月は別れの月、でも四月は新しい出会いがある。そうしてこれから長い人生の後半がスタートする。気負うことなく、「私は私」だと言い切る作者に、影ながら拍手を送ります。

●特選の選評 世代も違えば考え方も違う嫁と姑が、良い関係を築くのは至難の業。嫁と姑のもめ事への口出しは混乱させるだけ、変に喋らず間を取り持つ洗濯機が、嫁姑の関係を適度な距離感でスムーズにたいてくれる。

俳句



加茂都紀女先生

入選

老いて子に還りザクザク今朝の霜

富士見が丘2丁目 長島 道子

老眼鏡ピンクのフレーム春気分

中岡本町 中沢 智子

短歌



藤本 都先生

入選

寒すずめ身は膨らみて梅が枝の上枝に下枝に鬼ごっこする

大曾5丁目 岩淵 照美子

ガラス戸に影を映してゆく鳥に朱実の残らぬ小枝が揺るる

清原台5丁目 北市 邦子

川柳



佐藤隆久先生

入選

蠟梅の絵手紙届く寒の明け

埴田4丁目 西嶋 哲生

老犬の散歩手厚い乳母車

緑2丁目 片嶋 青水

令和7年度年間賞

令和7年4月号〜令和8年3月号の「市民俳歌柳壇」に掲載した作品の中から、左の通り、優れた作品が「年間賞」として選ばれました(敬称略)。大賞受賞者には、後日、記念品をお送りします。

大賞

父惚ぶ藍の甚平子がまどふ

岩曾町 金田 博子

菊越しに目礼交す今朝の秋

さつき3丁目 野武 俊志

子が数へ母がうなづく木の实かな

さつき3丁目 伊藤 幸子

大賞

木道のほかに道なき尾瀬ヶ原の地塘しずかに夏空を置く

緑2丁目 岩田 豊子

お水取り僧も火となり駆け回る闇に降る降る火の粉の雨が

緑2丁目 片嶋 青水

たまかぎる夕陽の見えし窓岩の崩れし窓に希望の灯り

日の出1丁目 大島 康正

大賞

ウエストは多分おそろくこの辺り

下田原町 五十嵐 由美子

ふる里の思い出を踏む霜柱

中岡本町 竹内 花

かた足をすこしうかして乗る秤

清原台6丁目 小太刀 節子

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

〒320-8540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い